うみのえほん

はにゅうしりつとしょかん

「うみがめのおじいさん」
いとうひろし／作　講談社　E/ウ

うみがめのおじいさんが波にゆられています。おじいさんは、広い海で旅をしてきました。たくさんの思い出が波のあいだからあらわれてきて…。

「およげないさかな」
せなけいこ／作・絵　ポプラ社　E/オ

うみのそこで、たくさんのさかながうまれたけど、あれ？ およげないこがいるよ。「あー、どうしてぼく、およげないんだろ」そんなさかなのこが、たどりついたのは…。

「きみはうみ」
西加奈子／絵と文　スイッチ・パブリッシング E/キ

深海は日が当たらない。真っ暗。でも、日影だって、真っ暗だって、それがその人にとって大切な場所であったなら、絶対に美しい。

「うみ」
ピレッド・ラウド／作　岩波書店　E/ウ

うみは魚たちがねるまえに、物語をいつも読んであげていました。でも、魚たちはふざけてばかりで…。よみきかせの大切さを教えてくれる。

「なみ」
スージー リー／作　講談社　E/ナ

小さな女の子が、おかあさんと海にやってきました。波との追いかけっこ。よせてはかえす波との、無心の遊び…。

「なみのいちにち」
阿部　結／作　ほるぷ出版　E/ナ

わたしは波。新しい太陽が顔をだして、わたしのいちにちが始まる。ねぼすけの鳥たちを起こし、海で働く者を送り出し、午後はお昼寝して…。

「アマミホシゾラフグ　海のミステリーサークルのなぞ」
江口絵理／ぶん　ほるぷ出版　E/ア

海の底にある、不思議な模様の「ミステリーサークル」。そのサークルの主は、手のひらほどのサイズの小さなフグ。なんと、新種の魚だったのです-。

「うみのそこたんけん」
中川ひろたか／ぶん　アリス館　E/ウ

海の底ってどんなふうになってるんだろう？ そう思ったとき、大きな「うみぼうず」があらわれて、海の水をごくごく飲んだ。すると、島だと思っていたところは山で…

「海のアトリエ」
堀川理万子／著　偕成社　E/ウ

おばあちゃんの部屋に飾ってある女の子の絵。「この子はだれ?」と聞いてみると、おばあちゃんは、子どものころの特別な思い出を話してくれて…。

「ヨシ」
リン・コックス／文　あすなろ書房　E/ヨ

ヨシという名前をもつアカウミガメは、だれに教えられたわけでもなく、ひとりで 3 万 7 千キロを泳いで、生まれ故郷に帰り…。

「へんたこさんせんちょうになる」
いとうひろし／作　偕成社　E/へ

船長になって世界の海を旅してみた～い！ それが、へんたこさんのだれにもいえないヒミツでした。夢に向かって挑戦を始めたへんたこさんは…。

「うみのまもの」
前田次郎／作　徳間書店　E/ウ

「獲物をとりすぎると、海の魔物があらわれる。よくばったらいけないよ」海に出かけていった男の子が、晩ごはんの獲物をとっていると…。

「うまれてくるよ海のなか」
高久至／しゃしん　アリス館　E/ウ

大事な卵を守る、海のお父さんとお母さん。赤ちゃんが生まれてくるまでがんばっています-。海の親子の姿が写真で紹介されている。

「すいめん」
高久至／写真・文　アリス館　E/ス

水面は、空と海の境界線。空の世界から水面を通り抜けると、魚たちが暮らす海の世界。水面は海と空の色がまざりあい、色をかえ…。